

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01200

研究課題名(和文) 啓蒙の言説圏と浮動する知の境界：貴重書・手稿・デジタル資料を総合した18世紀研究

研究課題名(英文) The discursive sphere of the Enlightenment and the floating boundary of knowledge

研究代表者

小関 武史 (KOSEKI, Takeshi)

一橋大学・大学院言語社会研究科・教授

研究者番号：70313450

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：18世紀西洋の啓蒙は、19世紀以後の知の原型を与えたと考えられてきた。本研究は「浮動する知の境界」という視点から多方面の貴重資料の分析を行い、「啓蒙の知の言説圏」について総合的な解釈を試みた。とくに留意したのは、日本の大学図書館が所蔵する西洋古典籍の現物を調査して、思想史研究と接続させることであった。三度にわたって実施したシンポジウムでは、多くの図書館職員の参加も得て、図書館における資料収集や目録作成と思想史研究者による文献調査を連動させる意義を確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

思想史研究の基本は、文献調査である。最も重要なのは書かれている内容だが、それ以外の要素にも研究の手掛かりが潜んでいる。たとえば、出版をめぐる状況や書物の物理的状態は、現物を手に取ることによって明らかになる。本研究の学術的成果は、デジタル資料だけでなく貴重書や手稿を併せて活用することが、思想史研究に寄与することを明らかにした点にある。一方、大学図書館が所蔵する貴重書が「宝の持ち腐れ」にならないようにするためには、目録整備が欠かせない。その重要性を示したことが、社会的意義である。

研究成果の概要(英文)：The 18th century Western Enlightenment has been considered to have provided the prototype for knowledge after the 19th century. This study analyzed valuable materials from a wide range of fields from the perspective of "floating boundaries of knowledge" and attempted a comprehensive interpretation of the "spheres of discourse" of Enlightenment. Particular attention was paid to investigating Western classical books held by Japanese university libraries and connecting them to research on history of ideas. Three symposiums were held, with the participation of many library staff, and confirmed the significance of linking the collection of materials and cataloging in libraries with bibliographical research by researchers on history of ideas.

研究分野：思想史

キーワード：啓蒙 言説分析 手稿 デジタルアーカイブ 西洋古典籍 書誌学

1. 研究開始当初の背景

「啓蒙の時代」や「理性の時代」と呼ばれるヨーロッパの18世紀は、近代の思想や制度が生まれた時代だった。それらは19世紀にはヨーロッパの範囲を超えて、アジアをはじめとして世界中に広がり、現代世界の基礎となっている。20世紀に入ると、「啓蒙」の功罪や現代的意義が問われるようになった。このように19世紀以後の世界の社会や思想、文化、芸術、政治経済を考えるうえで、啓蒙思想の理解は不可欠である。

国際18世紀学会を中心とする近年の啓蒙研究では、18世紀の知識や文化の在り方を広く探る試みが行われてきた。それらは「啓蒙」の多様性、複雑性を明らかにしたが、そのためかえって「啓蒙」の全体像を鳥瞰することが現在では困難になってきており、研究の総合化が望まれている。

このような成果を踏まえて新しい啓蒙の全体像を提示するためには、19世紀以後に失われた啓蒙の知の特徴を明確にし、この時代の知の固有性を解明する必要がある。

2. 研究の目的

大きな観点に立てば、研究の目的は新しい啓蒙の全体像を示すことにある。しかし、それは4年(結果的に5年となったが)という短期間で成し遂げるには、あまりにも大きな目的である。

そこで、本研究は18世紀の公共的な知の固有性を知の境界の浮遊性・流動性ととらえる視点を打ち出し、以下のように六つのテーマに細分化し、本研究班を構成する研究代表者と研究分担者を一つないし複数のテーマに割り振って、それぞれのテーマにおいて成果を上げることを目指した。六つのテーマとは、主体の複数性(著者が複数存在することや、一人の著者が改訂や書き込みなどを通して複数化すること)、公的言説と私的言説の境界の不確定性(書簡や手稿といった私的言説にも公共性を認めうるように、公的言説と私的言説の境界が必ずしも明瞭ではないこと)、正統化された言説と知の地下水脈の相互浸透(経験主義や合理主義のような正統派の言説と秘教的伝統に属する言説との関連)、現実とフィクションの境界の流動性(現実の政治や社会がフィクションに反映されたり、その逆にフィクションが現実作用したりすること)、「ヨーロッパ」という自己と他者の境界の確立(ヨーロッパという概念が成立するに当たってアジアを含む他の地域が果たした役割)、知の分節化と脱境界性(科学、宗教、政治等の言説が細分化される一方で、そうして成立した分野同士の境界が流動的であったこと)である。

次項の「研究の方法」とも関連するが、書誌学と思想史研究の融合も本研究の目的である。大学図書館等に蓄積された西洋古典籍を十分に研究に活かすには、まずその存在が知らなければならない。そしてそのためには、アクセスが容易で、なおかつ研究者が必要とする情報が盛り込まれた目録が整備されていなければならない。その重要性を学界だけでなく広く社会にも伝えることを、本研究は自らの使命とした。

3. 研究の方法

本研究の方法は現在の啓蒙研究の中心的な手法である、原資料の発掘、整理と、デジタル化を含む分析技法を駆使した実証的解析である。本研究は資料の海外での博捜と並行し、一橋大学、名古屋大学、早稲田大学が所蔵する西洋古典籍の分析を行う形で進められた。これら三つの大学図書館では、古くから貴重書の収集・整理に積極的に取り組んできた。中には世界的にも珍しい資料が含まれているが、思想史研究への活用が十二分になされてきたとは言えない。

近年の啓蒙研究は、デジタル化された資料に支えられている。本研究班を構成する研究代表者と研究分担者は、その意義を十分に認めつつも、デジタル資料だけで思想史研究が成立するとは考えない。日本各地の大学図書館が所蔵する西洋古典籍そのものに即した研究が重要であるという認識に立って、研究を進めることにした。

4. 研究成果

(1) シンポジウムの開催とその成果の出版

本研究の最大の成果は、三度のシンポジウムを開催したこと、およびその成果を出版したことである。以下に、それぞれのシンポジウムの概要を記す。

「書物の記述・世界の記述 書誌が描く18世紀啓蒙の世界」

2019年12月20日(金)に一橋大学佐野書院において開催した。司会は福島知己が担当した。

坂倉裕治は「旧体制下フランスにおける地下出版 リヨンの印刷業者ブリュイゼによる海賊版『エミール』(1762年)の舞台裏」と題して、ルソーの『エミール』の複数のバージョンの調査を通じて、18世紀フランスにおける出版業の実態に迫った。小関武史は「書誌学と思想史研究をつなぐ 書誌から読み解く『百科全書』」という演題のもと、『百科全書』の書誌研究をふまえて、書誌学の知見を思想史研究に活かす可能性を探った。松波京子は「西洋古典籍の書誌学的研究成果と図書館総目録への反映 現状と課題について」において、名古屋大学附

属図書館における目録作成の実績をもとに、思想史研究の成果を目録に反映させる具体策を提言した。

このシンポジウムの記録は、2020年3月に一橋大学社会科学古典資料センター発行の Study Series 第76号として発表された。

「西洋古典籍を巡る書誌と資料研究法の現在 『水田文庫貴重書目録補遺；水田珠枝文庫貴重書所収』を中心に」

2022年1月22日（土）に Zoom でライブ配信した。司会は隠岐さや香が担当した。

松波京子の「『水田文庫貴重書目録補遺；水田珠枝文庫貴重書所収』編集後記」と中井えり子（非研究分担者）の「西洋古典籍と大学図書館 名古屋大学での体験から書誌を中心に」の二つの発表は、水田文庫というコレクションの書誌作成についての具体的な事例報告であり、第一回シンポジウムにおける松波報告と同じ問題意識に立つ。高野彰（非研究分担者）は「折記号が示す洋古書の姿」において、西洋古典籍を扱ううえでの基本的な知識を平易な言葉で伝授した。

このシンポジウムの記録は、2022年9月に一橋大学社会科学古典資料センター発行の Study Series 第80号として発表された。

「国内所蔵の西洋古典籍をいかに活かすか 早稲田大学図書館所蔵コルヴェア文庫所収の貴重書を中心に」

2022年12月3日（土）に Zoom でライブ配信した。司会は小関武史が担当した。

福島知己は「文庫とその周辺 Corvaia, Gerits, Bernstein」において、コルヴェア文庫の来歴を説き、文庫において特権的な地位を占めるフリーエ主義の文献に着目し、図書館資料のコレクションという形態から出発した思想史研究の実例を示した。坂倉裕治は「旧体制下フランスの非正規本：リヨンで印刷されたエルヴェシウスの作品の場合」において、正規本と非正規本の異同を精査し、モノとしての特性が思想史研究に寄与することを明らかにした。雪嶋宏一（非研究分担者）は「コルヴェア文庫における1649年」と題して、文庫に含まれる262点のマザリナード文書の概要を提示した。

このシンポジウムの記録は、2024年2月に一橋大学社会科学古典資料センター発行の Study Series 第81号として発表された。会場での質疑応答も含めて収録し、図書館職員の現場の声を拾えたことにも大きな意味があった。

(2) 国際学会での成果報告

本研究の研究期間中に、国際18世紀学会の大会が二度開催された。本研究班のメンバーの多くは国際18世紀学会の会員であり、本研究と関連のある研究報告を行った者もいた。

15th International Congress on the Enlightenment (第15回国際18世紀学会大会、2019年7月、英国・エディンバラ)

長尾伸一と玉田敦子が司会を務めたセッションでは、坂本貴志と小関武史が東西文化交渉に関する報告を行った（上記「2. 研究の目的」で記したテーマと）。武田将明は現実とフィクションの境界についての具体例を分析し（テーマ）、隠岐さや香はアカデミーに属する知識人について論じた（テーマと）。

16th International Congress on the Enlightenment (第16回国際18世紀学会大会、2023年7月、イタリア・ローマ)

小関武史が司会を務めたセッションでは、飯田賢穂がデジタル・ヒューマニティーズの方法を活かしたルソーの手稿研究について、小関武史が『百科全書』の項目「ジンセン（人參）」の源泉について、それぞれ報告を行った。

(3) 貴重書の保存実態の見学

研究期間初年度の2019年9月に、一橋大学社会科学古典資料センターの書庫を見学した。元同センター専門助手の福島知己による案内のもと、西洋古典籍の所蔵と保存のあり方を实地に調査した。このこと自体は何らかの記録に残る研究成果とは言えないかもしれないが、研究班メンバーの多くが現場を知ったことが、三度に及ぶシンポジウムの土台になったことは確かであり、その意味では本研究の出発点となる調査であった。

(4) 残された課題と今後の展望

研究期間の2年目にコロナ禍に見舞われたこともあり、当初の計画通りに研究を進められなかった点もある。とくに海外の研究者との交流は、研究班のメンバーが国際18世紀学会大会に参加したことを除くと、十分には行えなかった。フランスやイギリスの研究者を招いての国際シンポジウムを実施できなかったことが悔やまれる。

各メンバーはそれぞれの分野で成果を上げたものの、六つのテーマに分けて遂行した研究を総合するという点では、統一的な視座を導入できなかった。これもまた、今後に残された課題である。

その一方で、図書館が所蔵する貴重な西洋古典籍を活用した思想史研究という方法には、三つのシンポジウムを経て確かな手応えを得た。同様の研究は、一橋大学、名古屋大学、早稲田大学以外の図書館でも可能であり、上記三大学の図書館の他のコレクションでもさらなる研究の余地がある。思想史研究者と図書館職員との連携がさらに進めば、書誌学と思想史研究の両方の分野で実り豊かな成果が上がると期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 長尾 伸一	4. 巻 80
2. 論文標題 ミニ・シンポジウム「西洋古典籍を巡る書誌と資料研究法の現在 - 『水田文庫貴重書目録補遺 ; 水田珠枝文庫貴重書所収』を中心に」趣旨説明	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一橋大学社会科学古典資料センター Study Series	6. 最初と最後の頁 5~6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15057/74315	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 高野 彰	4. 巻 80
2. 論文標題 折記号が示す洋古書の姿	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一橋大学社会科学古典資料センター Study Series	6. 最初と最後の頁 7~23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15057/74316	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 中井 えり子	4. 巻 80
2. 論文標題 西洋古典籍目録作成の実際 : 名古屋大学の事例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一橋大学社会科学古典資料センター Study Series	6. 最初と最後の頁 24~44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15057/74317	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 飯田 賢穂	4. 巻 第30号
2. 論文標題 La politique du solitaire : la notion d' "homme de bien" chez Rousseau, 1757-1760	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 青山フランス文学論集	6. 最初と最後の頁 33-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂本 貴志	4. 巻 234
2. 論文標題 スランガステーンと化石 - 江戸の自然史	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 成城大學經濟研究	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂本 貴志	4. 巻 2
2. 論文標題 世界知と哲学 - トマージウスからドイツ啓蒙へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 未来哲学	6. 最初と最後の頁 178-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中井 えり子、松波 京子	4. 巻 19
2. 論文標題 『水田文庫貴重書目録補遺：水田珠枝文庫貴重書目録所収』編集後記	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋大学附属図書館研究年報	6. 最初と最後の頁 37～51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/annul.19.37	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 屋敷 二郎	4. 巻 42
2. 論文標題 Juristische Literatur der fr?hen Neuzeit sehr gesucht!: oder ein R?ckblick der neueren Sammlungen dieser Jahre	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 一橋大学社会科学古典資料センター年報	6. 最初と最後の頁 9～18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15057/73370	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂倉裕治	4. 巻 76
2. 論文標題 旧体制下フランスにおける地下出版 リヨンの出版業者ブリュイゼによる海賊版『エミール』（1762年）制作の舞台裏	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Study Series	6. 最初と最後の頁 7-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小関武史	4. 巻 76
2. 論文標題 書誌学と思想史研究をつなぐ 書誌から読み解く『百科全書』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Study Series	6. 最初と最後の頁 23-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松波京子	4. 巻 76
2. 論文標題 西洋古典籍の書誌学的研究成果と図書館総合目録への反映 現状と課題について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Study Series	6. 最初と最後の頁 43-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小関 武史	4. 巻 81
2. 論文標題 Avant-Propos	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 一橋大学社会科学古典資料センター Study Series	6. 最初と最後の頁 5~7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15057/82192	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福島 知己	4. 巻 81
2. 論文標題 La collection et ses alentours : Corvaia, Bernstein, Gerits	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 一橋大学社会科学古典資料センター Study Series	6. 最初と最後の頁 8 ~ 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15057/82193	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 雪嶋 宏一	4. 巻 81
2. 論文標題 La collection et ses alentours : les Mazarinades collectionn?es par la famille Corvaia	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 一橋大学社会科学古典資料センター Study Series	6. 最初と最後の頁 22 ~ 37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15057/82194	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂倉 裕治	4. 巻 81
2. 論文標題 Les publications clandestines en France sous l' Ancien R?gime : le cas des versions illicites des oeuvres d' Helv?tius imprim?es ? Lyon	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 一橋大学社会科学古典資料センター Study Series	6. 最初と最後の頁 38 ~ 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15057/82195	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂倉 裕治、雪嶋 宏一、福島 知己、長尾 伸一、松波 京子	4. 巻 81
2. 論文標題 総括討論	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 一橋大学社会科学古典資料センター Study Series	6. 最初と最後の頁 54 ~ 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15057/82196	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 Takeshi Koseki
2. 発表標題 Dialogues caches entre Jaucourt et ses predecesseurs : une etude sur l ' article GINS-ENG de l ' Encyclopedie
3. 学会等名 16th International Congress on the Enlightenment (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoshiho Iida
2. 発表標題 Decrire le temps du manuscrit : Edition genetique et critique d ' un manuscrit de J.-J. Rousseau
3. 学会等名 16th International Congress on the Enlightenment (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 福島 知己
2. 発表標題 文庫とその周辺 Corvaia, Gerits, Bernstein
3. 学会等名 ミニ・シンポジウム「国内所蔵の西洋古典籍をいかに活かすか 早稲田大学図書館所蔵コルヴェア文庫所収の貴重書を中心にー」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂倉 裕治
2. 発表標題 旧体制下フランスの非正規本：リヨンで印刷されたエルヴェシウスの作品の場合
3. 学会等名 ミニ・シンポジウム「国内所蔵の西洋古典籍をいかに活かすか 早稲田大学図書館所蔵コルヴェア文庫所収の貴重書を中心にー」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 雪嶋 宏一
2. 発表標題 コルヴェア文庫における1649年
3. 学会等名 ミニ・シンポジウム「国内所蔵の西洋古典籍をいかに活かすか 早稲田大学図書館所蔵コルヴェア文庫所収の貴重書を中心にー」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松波 京子
2. 発表標題 Eriko NAKAI, Kyoko MATSUNAMI, The Mizuta Library of Rare Books in the History of European Social Thought. A supplementary catalogue of the Nagoya University Library Collection, including the Catalogue of Mizuta Tamae Library of Rare Books, (2021.3) 編集後記
3. 学会等名 本科研主催【ミニ・シンポジウム】 西洋古典籍を巡る書誌と資料研究法の現在
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masaaki Takeda
2. 発表標題 "Such a Damn 'd Clever Book": Poetics of Suspended Animation in Sterne 's Tristram Shandy.
3. 学会等名 Reality and Fiction in Philosophy and Literature (organised by University of Bonn, New York University, and University of Tokyo) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 玉田 敦子
2. 発表標題 近代語による国家の創設 アカデミー・フランセーズと啓蒙期の言語革命
3. 学会等名 日本18世紀学会第43回大会共通論題：学問・芸術の制度と『自由』 18世紀におけるアカデミー、大学、官僚機構（コーディネーター： 隠岐さや香 名古屋大学）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長尾 伸一
2. 発表標題 歴史的文脈の中のニュートン主義
3. 学会等名 シンポジウム『新たなニュートン像』を超えて
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takashi Sakamoto
2. 発表標題 The Tale of the Bamboo Cutter and the Orphic-Pythagorean
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeshi Koseki
2. 発表標題 Kaempfer et Charlevoix : deux regards sur le Japon
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaaki Takeda
2. 発表標題 'With Such Alterations As Might Mostly Satisfy the Curiosity of the Public': George Psalmanazar and the Disguised Identity of the Novel
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sayaka Oki
2. 発表標題 L' autonomie du "savant", sa negociation et sa reformulation au cours du XVIIIe siecle
3. 学会等名 15th International Congress on the Enlightenment (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂倉裕治
2. 発表標題 旧体制下フランスにおける地下出版 リヨンの出版業者ブリュイゼによる海賊版『エミール』（1762年）制作の舞台裏
3. 学会等名 シンポジウム「書物の記述・世界の記述 書誌が描く18世紀啓蒙の世界」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小関武史
2. 発表標題 書誌学と思想史研究をつなぐ 書誌から読み解く『百科全書』
3. 学会等名 シンポジウム「書物の記述・世界の記述 書誌が描く18世紀啓蒙の世界」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松波京子
2. 発表標題 西洋古典籍の書誌学的研究成果と図書館総合目録への反映 現状と課題について
3. 学会等名 シンポジウム「書物の記述・世界の記述 書誌が描く18世紀啓蒙の世界」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂倉裕治
2. 発表標題 リヨンの印刷業者レギヤによる海賊版『社会契約論』(1762年)制作の舞台裏 旧体制下フランスにおける禁書・海賊版の地下出版と出版統制の綾
3. 学会等名 日本18世紀学会第41回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuji Sakakura
2. 発表標題 Les publications clandestines en France sous l' Ancien Regime : le cas des versions illicites des oeuvres d' Helvetius imprimees a Lyon
3. 学会等名 Colloque international "Helvetius, affects et desirs des Lmieres" (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 坂本貴志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 未来哲学研究所	5. 総ページ数 312
3. 書名 世界知 の劇場	

1. 著者名 東京大学東アジア藝文書院、田辺 明生、中島 隆博、武田 将明、羽田 正、四本 裕子、張 政遠、橋本 英樹、伊達 聖伸、石井 剛、王 欽、國分 功一郎、熊谷 晋一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 トランスビュー	5. 総ページ数 360
3. 書名 『私たちはどのような世界を想像すべきか』 「小説と人間 Gulliver 's Travelsを読む」(武田 将明)	

1. 著者名 Steven Clark and Yukari Yoshihara	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave	5. 総ページ数 441
3. 書名 "Robinson Crusoe in Asia", "Kicking Away the Gold Coins: Otsuka Hisao's Reading of Robinson Crusoe and the "Human Archetype" of Post-War Japan." (Masaaki Takeda)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長尾 伸一 (Nagao Shinichi) (30207980)	名古屋大学・経済学研究科・名誉教授 (13901)	
研究分担者	飯田 賢穂 (Iida Yoshiho) (90806663)	慶應義塾大学・商学部(日吉)・研究員 (32612)	
研究分担者	隠岐 さや香 (Okii Sayaka) (60536879)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・教授 (12601)	
研究分担者	川名 雄一郎 (Kawana Yuichiro) (20595920)	東京経済大学・経済学部・准教授 (32649)	
研究分担者	坂倉 裕治 (Sakakura Yuji) (60318681)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坂本 貴志 (Sakamoto Takashi) (10314783)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	武田 将明 (Takeda Masaaki) (10434177)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	玉田 敦子 (Tamada Atsuko) (00434580)	中部大学・人文学部・教授 (33910)	
研究分担者	長谷川 拓彌 (Hasegawa Takuya) (70964972)	名古屋大学・経済学研究科・助教 (13901)	
研究分担者	深貝 保則 (Fukagai Yasunori) (00165242)	横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・名誉教授 (12701)	
研究分担者	福島 知己 (Fukushima Tomomi) (30377064)	帝京大学・経済学部・准教授 (32643)	
研究分担者	福田 名津子 (Fukuda Natsuko) (30456305)	松山大学・人文学部・准教授 (36301)	
研究分担者	逸見 竜生 (Hemmi Tatsuo) (60251782)	新潟大学・人文社会科学系・教授 (13101)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松波 京子 (Matsunami Kyoko) (10717119)	名古屋大学・経済学研究科・招へい教員 (13901)	
研究分担者	屋敷 二郎 (Yashiki Jiro) (30293145)	一橋大学・大学院法学研究科・教授 (12613)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関